

「ふるさとづくり」の火種を拡散しよう

139

暑さ寒さも彼岸まで。桜の開花も間近い。門出の時期。

①先日、昨年五月より開塾された「ふるさとづくりもたらう塾」の一期生が卒業した。石井知事をはじめ、岡山県コミュニティ協会（小山会長）や企画運営委員会（日瀬会長）等の協力により、熱心に講義、討論、自主企画による調査・研究等が行なわれた。

②県下各地からの荒削りながら、个性的でエネルギーシユな老若男女が集まり、カンカンガクガクの議論がなされた。私は、塾生の迫力に腰が引けた。さぞかし、県民生活課の担当者は、毛並みの違う野人に面食らったのではないかと想像する。

③しかし、回を重ねるごとに「角」がとれて、みんなが溶け合うようになり、和気あいあいの状況になった。みんな岡山を良くしようという熱い思いを持った人達だから、相通じ合うところがある。岡山より東京は広い、東京より世界はさらに広い、ということが判った。井の中の蛙が目覚めて大海を知った。

④いろいろな事情で田舎にいる優秀な人材が、いかに多いことか。機会とチャンスが与えられれば、一角の人になれる。世の中には、官僚の中の官僚と、うぬ惚れている大蔵官僚より、勝るとも劣らぬ人材が、掃いて捨てるほどいるのも現実

である。

⑤地域づくりのリーダーを養成するのが本来の目的。限られた時間内では、すべてのケースを勉強することは不可能。地域が抱える課題は、守備範囲が多岐に渡り広い。塾に参加したからリーダーというのはおこがましい。今後の実践活動において、あらゆる場面で、柔軟に解決してゆく能力を養ったと理解すればよい。

⑥「ふるさとづくり」に精進しようという「火種」をおこしたことに意義があると思う。火を絶やすことなく、パツと燃え上がらせ、各方面に伝播し、県民の「共鳴」の輪が大きく広がることを期待する。

⑦同様の発想に基づき、地域共同体を密にして、犯罪予防等に力を入れようと三谷県警本部長の音頭のもと、「共働」の懸け橋キャンペーンが始まっている。郵便局員をはじめ、多くの人に情報を提供してもらい、「交番」を中心に活動する。

⑧「遠くの親類より近くの他人」といいます。疎遠になりがちな隣近所がもつと助け合おうという啓蒙運動。岡山ガーディアンスも誕生するから、ベレー帽の若者が街角で見られる日も近い。

⑨戦後、個人の「自由」がもてはやされてきたが、所詮、人は自分のみでは、生きて行けないことがわかった。21世紀は、みんなが、安全で住み良い地域をつくるために、地域住民等が共に働くことが大切であるという当たり前のことに気付いた。良いことである。

日の丸と金メダル

感動と涙を、もたらした青春

(137)

オリンピックに湧いた日々だった。奈義町では、〝満作〟が咲いているそうだ。春はもうそこまで来ている。

一、人生観が、変わる時

①同年輩の知人が闘病生活の末、亡くなった。淋しく残念。突然襲って来る病魔に侵される現実をみていると、一日一日を充実させて無駄なく懸命に生きることが大切だ、とつくづく思った。

②第一勸銀の頭取・副頭取は、不祥事により若返ったとはいえ、一九四二年生まれ。刺激を受けた。早い人は、四十歳代半ばから、それぞれの分野で、重要なポストに就く。③もちろん息抜き時間も必要だが、何事にも一所懸命に精進し、充実した日々にすることが大切だ。日常生活を、再点検してみたい。

二、小さな体に宿る、大きな魂

①冬季オリンピック長野大会は、日本選手の大活躍で大いに盛り上がった。温暖な岡山は、冬場のスポーツはあまり盛んではないが、おもしろい競技もあった。②スケートの清水・モーグルの里谷さん等々、一芸に秀でることは素晴らしいことだ。ここ一番という時は〝集中力〟が絶対に必要。自己ベスト以上のレコードが生まれる。

③青少年犯罪が問題になっている昨今だが、逆に、若い人の活躍により、暗い世相に明るさを見出し、オジサン達も、頑張る勇気が湧いてきた。〝ありがと〟と素直に誉めたい。

三、女性のガンバリ

①兵庫県朝来町に有限会社「朝来農産物加工所」がある。八十一歳のおばあさんが社長さん。〝黒大豆入り味噌〟の委託加工会社。②また、徳島県上勝町では、〝木の葉〟を拾い集めて加工し、附加価値をつけて料理の「つまもの」を作っている。これまた、全国ブランドのため高値で売れている。

③いずれの例も、高齢者対策からみれば、興味のある事象なのだ。働くという労働意欲、自分の自由になるお金が手に入り、社会との一体感が味わえる。高齢社会のあるべき姿の理想形態。

④これからの社会は、女性を使いこなせない企業は伸びない。人口の半数は女性である。スペシャリストとして才能を磨けば、男性と同等以上の待遇で、尊重してくれる。

四、タウンマネージメント

①中心市街地の再生に向けて、建設・通産・自治など十一省庁が連携し、横断的な支援メニューを目玉事業としている。今国会で、法律が成立予定。

②岡山県内の自治体の反応は、まだこれからのようであるが、市街地の活性化に向けて、政府は、本格的に〝てこ入れ〟する。受け入れ体制を整える必要がある。

③山陽新聞に「街づくり再考」という連載記事が載った。各界からの〝提言〟は、つまるところ、街づくりを始めとする行政と住民の連携のあり方は、官は民の補完で十分ということ。

汚職天国ニッポン

大蔵省自体のビッグ・バーンを先行せよ

136

周期的に寒波が押し寄せ、大雪が首都圏を襲った。時期が遅かった。景気への経済効果は少ないようだ。

一、頭の良いだけが、能ではない！

①「接待」も度が過ぎれば、違法性を帯びて、贈賄の構成要件に該当し、犯罪になることは当然。頭の抜群に良い「官僚の中の官僚」といわれる大蔵省なのに、その程度のことに分からないボンクラらしい。独り善がりの常識は、世間では通用しない。

②公用車で送り迎えされ、ゴルフや接待が連日連夜ともなれば、頭より「体力」が勝負。料亭でうまいものを食べ、交際範囲は限られた特定の人達であれば、世の中の動き、経済の動向に疎くなる。景気が、どのような状況になっているかを把握できるはずがない。

③だから、景気判断を誤るのだ。「橋本デフレ」の根源は、大蔵省の政策判断ミス。

接待漬けに明け暮れ、挙句の果ては長期不況を招来して、日本経済を奈落の底に落とした。世紀末だから、官僚の世界を徹底的に浄化しておこう。そして輝やかしい21世紀を迎えたい。

④秀才の官僚だけに限らず、世の中には、記憶力が良く、頭の良い人は「まん」といる。しかし、頭が良いだけでは世の中は渡れないのに、役人の世界では、入省間もなくから、ちやほやされる。先輩を見習って、省庁の慣行や雰囲気溶け込めば、昇格の階段を登っていける仕組みになっている。

⑤法律で公務員の倫理を規制するのも結構だが、「行政改革」すなわちシステムを再構築することが必要。長年に渡り、がんじがらめに、金融機関等を拘束してきた。つまるところ、◎自由裁量◎行政指導を規制緩和して最大限なくすることが早道だ。

⑥また、「職業選択の自由」の問題がネットワークになっているが、プロパー（生え抜き）の士気に影響するから、「天下り人事」により金融機関等の役職ポストへ就くことを大幅に制限することも、癒着をなくす切り札となる。

⑦検察庁をはじめ国民は「堪忍袋の緒」が切れて怒っている。大蔵省を解体して、金融・財政・国税に権限を分散すること。権力が集中すると異常心理になるものだ。ヒットラーをはじめ、歴史が教えている。鉄は熱い内に打て。

二、景気浮場の足をひっぱる

①個人消費の落ち込みなどにより、不況が顕在化している時期に、大蔵省の不祥事は、「デフレ」に追い討ちを掛けることになる。

②企業などの中元、歳暮が全面廃止の傾向へ加速し、賃金カットとの相乗効果により、景気悪化は、確実視される。

③広島は、官公庁の最先機関が多いので、さらに不況が深刻化するのではないだろうか。ポテンシャルに富む岡山が、広島に追いつき追い越す絶好のチャンスかも知れない。

何とかしなければ！燃える県民

135

厳しい乱世の時代が始まった。不透明な世相は、自由市場経済の到来を意味し、当然の帰結。先を読む能力が必要となる。

に満たされつつある。県民は経済的体力がある。みんなの気持ち（ヤル気）が課題。

一、話し方の大切さ

三、私の意見・異見

①大学の先生の意見が、新聞に登載されていた。学生の私語が多く、勝手な振舞を教室内でするので困ると嘆いていた。

①チボリ公園は好調であるが、不定期に休園するため、苦情が寄せられているそうだ。テーマパークは年中無休の意気込みでやって欲しい。

②恥の上塗りではないか。魅力のある講義であれば熱心に聴講するはず。大学の先生が、自分流に話をして、聞く相手の反応に配慮が欠けているからでは？

②観光に力を入れるということだが、受け入れ側の対応には反省の余地がありそうだ。都会なみの宿泊代と歓楽街の飲み代では、再度来る意欲が湧かない。業界全体の問題としてコストダウンを考えないと、一見客と思っていると、しつぺ返しを食うかも。

③私は、他人の講演を聞いてああいう話し方が良いのだと反省している。印象に残る話は、多くを語らず、要点を絞り、メリハリがあり、話の間があつて、平易なよくわかる言葉で、面白く話すのがコツのようだ。

③県外のお客様に対する、もてなしの対応が十分でない。例えば、観光バスは駅から二〇〇m以上離れたところで降ろされ、重い荷物をさげて歩かされる。もう二度と岡山には来ないぞ、という気持ちにさせるのではないか。

二、危機感がチャンスと呼ぶ

①岡山を何とかしなければという熱意は大変なもの。岡山経済同友会をはじめ、各種会合で、真剣に岡山をどうすればよいかが話題になっている。

④国鉄精算事業団の四〇〇坪の更地が駅前の一等地にある。第三セクターとして成功した会社が共同出資して、当該地に、観光用の複合ビルを建設し、一階は観光バス・二階以上は観光情報発信基地・特産品販売コーナー等を常設したらどうか。県が建物をリースして、運営管理してもよい。

②石井知事を先頭に、二十一世紀に岡山県を飛躍させるため、財源が乏しくとも、知恵を働かせて頑張っている姿勢には感動を覚える。ポテンシャル（潜在能力）を、どのように料理し味付けするかだ。

③岡山駅前広場の工事も始まった。建設中のビルも順調に進行中。広域道路網などのインフラも充実してきた。諸条件は着実に

⑤岡山空港までの足の確保（モノレール）を再検討すべき。定時制が維持されれば、飛行機を利用する機会が増す。空港は整備されるのに、足のアクセスがついて行かないのでは困る。